

2018年度第1回例会

日時：2018年6月30日（土）13:30～15:30

会場：ウィングス京都

司会：阪田敦子

出席者：15名

2018年度の第1回例会は、

- 支部長挨拶、
 - 勝目康氏講演
 - 新会員紹介
 - 2018年度全国総会（静岡）報告
- と進められました。

今回の講師は勝目会員のご子息であり京都府総務部長である勝目康氏。自治省入省から21年のご経験等を、～『官僚』という仕事～と銘打ってお話して頂きました。

松田栄子支部長挨拶



勝目会員のご子息が、ご尊父のご逝去後のお取り込み中にもかかわらず、今日駆けつけてくださいました。勝目会員によりますと、ご子息が小学生のころお二人でパリ祭に行かれたそうです。クライマックスの花火でも眠っているのんびりしたお子様だったそうですが、マルセイユへ行かなければならないとき反対行きのプラットホームにいることに気づき、見事！まだよくアルファベットもわからないのに鉄道ファンとしての底力を見せ、お母様を目的地まで無事導いたとお聞きしました。

その思い出もあったせいかフランス語を短期間でマスターされ、一等書記官としてのフランス滞在時はサルコジ大統領の言説の訳もなされるほどだったそうです。直近では、安倍首相を支える秘書官としてご活躍なさいました。

明治以来身近なことでも、また、国を動かすことでも大きな力を持ってきた官僚についてお話しいただきたいと思います

講演 ～『官僚』という仕事～



講師 勝目康氏

東京大学法学部卒業。平成9年自治省入省

その後消防庁総務課理事官、内閣官房副長官秘書官等を

歴任し、平成30年京都府総務部長に就任。

趣味はサッカー観戦。

私は仕事を始めて21年。官僚としては中堅層である。2017年に京都府庁に赴任する前3年間は首相官邸に身を置いていた。政治と官僚の関係がクローズアップされている時でも

あるので、結節点にいた経験も踏まえてお話したい。

自治省に入省すると、国と地方公共団体を行き来してポジションを上げて行くのが一般的であるが、私の場合それに加え若い頃国会に行き選挙制度改革に携わり、その後留学と大使館勤務で計5年の海外生活。そして官邸に3年等結局本省勤務は4年と、霞が関でも特異なキャリアパスを歩んでいる。

官僚というのはジェネラリストを養成するキャリアパスであり、中でも自分は専門性を問われると疑問符が付くが、現職の地方自治はある種の専門職なのではないかと考えている。そういう点で、その時々で環境で柔軟に対処していく20年であった。

官僚とは

官僚とは明確な定義は無い。一般のイメージとして国家公務員の総合職試験を通った人の中で・法律・経済・政治・国際といった分野のいわゆる「事務系」の総合職である。

今年の総合職（事務系）の試験合格者は728人。ここから合格者が各省を回り何度も面接を受け、最終200人以上が採用される見通しだ。

総合職の受験者数は平成8年の約4万5千人をピークに減っており、今年は遂に2万人を切った。その要因として岩盤志望層の相対化が挙げられる。外資系企業やベンチャーにより魅力を感じる等、この2、30年で志望者層の属性の変化が起きているのだ。こうした中で霞が関各省もOJT(実務を通しての教育訓練)ではなく、底上げを目的とした人材育成プログラムの必要性を感じている。そして、もう一つの要因は「森友・加計問題」によるイメージダウンとの指摘がある。

政官関係

今回「森友・加計問題」を機に政官関係が問われ直されているが、この政官関係は19世紀の仏の小説家バルザックの作品でも問われており、国の統治が始まって以来のテーマである。

日本の政官関係のベースは平成の初頭から始まった政治行政改革の流れの中にある。その政治改革とは政権交代可能な選挙制度、2大政党制を前提とした小選挙区制の導入。それと対をなす様に与党の中での派閥で争うのではなく、政党間が競えるよう片方の政党の求心力を高めなければならないという観点での官邸、内閣機能の強化。ここまでで20年以上に及ぶ改革が行われてきた。そのひとつの形が今の状況であり、内容が好ましいか、望ましいかは人それぞれだろうが、今まで作り上げてきたシステムの結実点であることは確かであり、これ自体の否定は絶対にできない。

内閣主導、機能強化以前は「省益あって国益なし」の時代で、各省局には与党の族議員が付き、取捨選択をせず全て盛り込む足し算の政治であった。

その後、高度経済成長期が終わり、人材、財源的にも資源が限られていく中でどう分配するかという取捨選択の時代に入った時に、各省分立分散型の仕組みでいいのか。そこで取り組まれてきたのが内閣機能の強化と、内閣官房が各省を総合調整する力を強めることであり、省庁再編もその一環として位置づけられる。内閣人事局の設置もその問題意識の延長である。

内閣人事局

平成26年に設置された内閣人事局。この存在によって官僚が人事を官邸に握られて萎縮をしてしまったという意見がある。そうすると官邸、内閣機能の強化と人事は分けて考えられるかという議論になる。政治行政の世界だけでなくあらゆる組織にいえ事だが、何かを実行しようとした時そこには適材適所があり、今の日本が置かれている環境の中で官

邸の機能を保たなければならないという立場に立つのであれば、人事も表裏一体である。

内閣人事局自体は必要な仕組みだと言えるが、運用面では改善点はあり得る。各省の部長局長以上の役職約 600 人の人事を行っている。この人数を内閣人事局で見切れるかという点と難しい所もあり、プロモーションをしていく中であって、個人的な政治色を付けつみ出すと言う事が起これば弊害が多いという意見がある。

日本も戦前にこれを経験している。戦前の 2 大政党時代、双方が獵官制を懲遷するような人事をしており、その結果腐敗が進みその間隙を突いて軍部が行政に入り込んできた苦い経験がある。それを念頭に置いて内閣人事による官邸、内閣主導の人事を行う事に警鐘を鳴らす人もいる。

政治主導

内閣人事問題の顕在化は現政権と言われるが、遡ると前政権時代も政治主導人事であった。政治主導とは個人の政治家が主導するのではなく、民意を得た政党が作った内閣が組織として主導する。そこには利害調整が必要であるが、意思決定のみ政治家で行い必要な利害調整を含む全てを役人任せにしていた時期もあった。

主導と言うと日本では封建的な上下関係に捉えられがちである。そうすると官僚は政治より下と捉えられ、役割分担の在り方として違う文脈ができてしまう。政官の正当な役割分担の上での政治主導と、上下関係の様な受け止めが混在したままで今の政治主導が進んで来てしまっている。

これにどう対応するかという所で、ある意味でのひとつの処世術を示したのが加計学園問題に於いての前川前事務次官である。その中でこんな発言があった。

「公平であるべき行政が歪められた。」

それに対して加戸守行愛媛県前知事は

「歪められた行政を正した。」と発言。一見子供の喧嘩のようであるが、本質的な所も含んでいる。それは何かというと、行政の公平、安定は、既存のルールの当てはめとしては当然あるが、物事を変えようとしている時、ダイナミズムが働く時に、それを徹底的に追求していくことがどこまで可能なのか。公平、安定を優先するあまりダイナミズムを失ってしまう事があって良いのか。

加計学園の例で言うと、50 年新設が無かった獣医学部。獣医師会の強いプレッシャーがあり、次のイノベーションに繋がる獣医師(産業、創薬等)は不足している中で、そこに風穴を開けるダイナミズムはあって然るべきという考えは成立する。公平中立であるべき行政というのと、政治ダイナミズムは時に緊張関係をはらむ。公平中立が損なわれる事態を直ちに避けないといけないのかは、一つ一つ見なければならない。しかし、政治がダイナミズムを発揮する時何をしても良いのかということそうではない。

**官による理論の支えのない政はむき出しの権力=暴力
他方、政の民主的な正当性のない官は暴走である。**

政の裏側が暴力的になってはいけないし、官の裏側が暴走してもいけない。そこに政官の均衡点を見出していかなければならない。

終わりに

官の立場からすると、毎年総理大臣が変わるのではなく安定的な政権基盤の元落ち着いて仕事がしたい。そして公正中立を担保する為、官の努力はもちろんの事、政治側の一定の緊張感も必要だ。それをもたらすのはメディアでもなく、少数分裂した野党が日程闘争や強行採決の演出といった旧来の国会対策政治でもない。野党が現実的な選択肢となり得る政策を提示し、二者択一になる姿を作る。その緊張感の中でこそ政官の役割が規定され、

環境も整備されるだろう。

日本の中枢に身を置かれていたからこそその重みのあるお話に会員一同引き込まれました。講演の後の質疑応答では沢山の質問がされ、一つ一つ丁寧にお答え頂きました。

2018年度全国総会報告

支部長を始め、総会に参加した会員による報告が為されました。支部長会、懇親会、総会、分科会、研修会の順に報告され、何れも静岡支部の皆様のお心のこもったものであり、次年度の京都全国総会の参考になるものでした。

副支部長挨拶

新会員を3人もお迎えして、大変嬉しい会となりました。今後もぜひ宜しくお願ひ致します。講演では、普段聞けない官僚の中身の話を伺い、私たちにとってはレベルの高いお話が聞けたのではないかと思います。そして全国総会の報告がありましたが、来年は私たちの番ですので、お一人お一人の力をお借りし助けて頂きたいと思ひます。本日はありがとうございました。

新会員紹介

今年度は3名の新しい会員を迎えました。

永田璞子さん

名倉素子さん

吉川攝さん

これからよろしくお願ひ申し上げます♪

